

第 1 回 南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 27 年 8 月 26 日(水)午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
会 場	南区役所 4 階講堂
出席者	<p>区自治協議会委員 出席25名 教育委員 吉村教育委員、藤田教育委員 事務局 教育次長、教育総務課長、地域教育推進課長、区教育支援センター所長、 学校支援課長補佐、白根地区公民館長、南区地域課長</p>
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 教育委員代表挨拶 藤田教育委員</p> <p>3 出席者紹介</p> <p>4 教育委員会情報提供(教育総務課長)</p> <p>5 事前質問回答(地域教育推進課長、学校支援課補佐) テーマ「地域と学校の連携について」～豊かな心を育むために～ 事務局説明 南区教育センター所長</p> <p>6 意見交換</p> <p>自治協委員 いじめや自殺についての報道では、教育委員会は必ずと言っていいくらい最初はいじめを否定する。しかし、捜査協力が広まると最後は、「いじめは、あった。あったらしい。」との話となる。 新潟市の教育委員として、そういうことに対する認識と方向性について、どのように考えているか。</p> <p>自治協委員 今日も自殺の報道がありました。言われる通り、教育委員会、学校は必ず否定している。新潟市は、今年 4 月から新たな教育委員会制度が始まっているが、滋賀県の大津市の例などであった「責任のなすりあい」が無いようにしてほしい。 南区担当教育委員のお二人から頑張っていたいただいて、学校の校長、先生、家庭なり地域を教育していただければ本当に良くなるのではないかと考えている。すぐにはできないと思うが、どのように考えているか。</p> <p>教育委員 大変切ない思いで貴重なご意見を伺いました。仙台市のいじめ問題で、当初「いじめはなかった」という見解を変えたことで騒動が起きています。</p>

大津市の事件を含め、後になって言ったことをひるがえすということが現実にありますので、ただ今いただいたご指摘は否定できませんが、新潟市の教育委員としては、あってはならないことだと思っています。そのため、隠蔽的な方向に行かないように、昨年から第三者の委員会がすぐに調査に入るチェック体制を作り上げています。

また、今現在、学校現場、教育行政と政府並びに保護者の申し出が違って困った状態になっている事案は把握していません。

自治協委員

今のいじめの問題について、子どもたちに自分の命も他人の命も「命というものは大事なのだよ」ということを教えていただきたい。

「豊かな心」というものは、子どもと先生の間だけではなく、地域の方から言われるだけでも絶対に無理であり、いちばん大事なものは家庭であると思っている。先ほど道徳の学習参観について説明があったが、ぜひ、親子で一緒に考えるような場にしてほしい。お父さん、お母さんも参加して道徳の授業を聞くなど、保護者を取り込むような子育て、親育てをしてほしい。

学校にボランティアに行くと、理解のある親もいるが、地域の方々への言動で、子どもより親の方が失礼な態度をとるようなことも見受けられる。

そうすると地域の方からも「どうして親がやらないのだ」、「PTAは何をやっているのだ」といった、お互い反目状態になってしまうのでは。親の心も豊かになるような「豊かな教育」というものを考えていただきたい。

自治協委員

私も同意見。道徳時間の参観も良いが、昔、子どもと毎月 1 回、親子で話し合うような宿題があったと思うが、今はどうか。そういう課題を与えて、必ず親子で話し合う時間を家庭で持たせたらどうか。そういった工夫も良いのではないか。

自治協委員

私がいつも考えているのは、そういう会に出てきて、話し合える家庭は、子どももあまり問題がない気がする。本当に来てもらいたい人たちを巻き込む方法などがあつたら、問題も少なくなるのでは。

自治協委員

事前質問の回答の、校長を中心とした指導体制の充実という説明。これは道徳教育の話だろうと思うが、そういう校長先生を主体とした動きがあることは素晴らしいこと。市長が定めた大綱を実践するには、校長の指導力が伴ってくると思う。教員の異動によって、新潟市の大綱の浸透が少なくなるケースも出てくるかと思う。実態を詳しく調査して、実践に疎いところは指導するような体制を作っていただきたい。

教育委員会事務局

校長はもちろんのこと、新しく新潟市に異動した教員についても、研修として市の総合教育センターで新潟市の教育ビジョン、あるいは新潟市学校教育の重点、それに関わるいろいろな取り組みでこういったところを利用しながら、学校経営あるいは教育活動を進めてほしいということについて、機会をとらえて指導していますし、今後も指導の充実を図りたいと考えています。

教育委員

教職員の人事異動について、政令市新潟市は県や下越は関係なく新潟市教育委員会でやっています。現状として、新潟市に在籍する、居住している教員の数と新潟市の学校が必要とする教員の数が合わない。つまり、同じ新潟市の教員でも市内の学校に勤務できないあふれた状態になっています。県と協議しながら、10年に1回くらいは市外の学校の運営も見てくるという配慮もされているということです。

教員の資質向上、公平な人事をというお話は昨年も伺いましたので、また人事担当部署に伝えます。

教育委員会事務局

新潟市の教員は新潟市が人事権を持っています。県から移ってきた教員もおりますが、新潟市の教育方針を教育ビジョンという形で表しています。新潟市の教育委員会は学校と社会教育施設と地域の力を合わせて、しっかりと子ども、人材を育てることをやっています。他所から入ってきた教員に対しても当然、理解してもらったうえで教壇に立ってもらおうという研修や指導を行っています。

もう一つ、本当に来てほしい親から足を運んでもらえないということについてです。基本的に、学校だけでは対処しきれない問題が出てきています。たとえば、スマホの使いかたでも、学校で「だめ」と言っても家へ帰ると、1日4時間、高校生は使っている。家庭と学校が一緒になって、きちんとしたことを教えて育てていかないといけない時代になっています。教育委員会全体として、これからもしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

教育委員会事務局

教育ビジョンの中で家庭・地域・学校との連携について、それぞれが、それぞれの役割を担っていくことで「学・社・民の融合」という大きな力となるという理念をうたっています。ただ、なかなか今の親も忙しく、子どものことばかりに関わってられないという理由も聞こえてくるのも確かです。しかし、本当に大事な時に子どもたちに関わってほしい、と思うことはあるのです。その中で、親が忙しいのであれば、地域の私たちが子どもたちに接していきましょと、多くの方から地域と学校パートナーシップ事業にご協力をいただいています。

この事業については、地域と学校ウエルカム参観日という、公開の授業参観をしています。南区では、9月に根岸小学校で行われますので是非ご覧ください。保護者の方が来たくくなるような、来て安心できるようなそういうつながり、雰囲気というものを学校と地域でも作っていくことが大事だと思っています。「来られない」ということは、来られないなりの理由があったり、「行くと何か言われるかもしれないなあ」という心配があったりすると思いますが、そこでぜひ顔見知りになって、行ってみようよと声を掛けると安心する方もいらっしゃるのではないかと思います。ボランティアが増えてきた理由の一つには、口コミで「あなたも行ってみようよ、私も行くからね。」と言うと安心していけるのだそうです。そういうつながりを、色々なところで作っていただくことが大事なのでないかと考えました。

自治協委員

私は子育て真っ最中の現役世代。子どもたちには親も地域の人たちもしっかりと教え聞かせているが、いざ、自分自身に立ち返った時に「自分たちはちゃんとしているのだろうか」とみんなで考える必要があるといつも考えている。親だけでなく地域全体で、困ったことがあれば助け合い、悪口を言わずに相手の身になって考えるような空気感が地域の中に生まれたら良いのではと思っている。

自治協委員

最近、キャリア教育の会議に参加した。キャリア教育について、南区ではどのくらい進んでいて、どのような状況になっているのか。

その会議で、子どもを育てても地域で就職をしたいのかというところで、区外や県外に魅力を感じれば流失してしまう。地域の会社でどれだけ採用があり、子どもたちに会社に入ってほしいというPRや、そういった関わりを地元で作っていけるかどうかというところが、これからの課題と感じてきた。

また、その会議で学校の先生方は意外とキャリア教育に関心がないように見受けられた。小学生、中学生のうちに地元でこういう職種の仕事があって、どんな内容の仕事をしているのか十分見てもらうなど、地元で働きたくなるようにしていかないと、「地域で子どもが大人になって育っていく」ことにつながらない。その辺のあり方を、ぜひ先生方に意識付けして欲しい。

また、勤め先の優遇といった部分、たとえば公共施設でも、一人でも多くの地元の子どもが務めやすいような優遇的なものや、地元の子どもたちが地元で働ける環境づくりをぜひ提言いただきたい。

自治協委員

今のご意見は大変大事なことで、一人一人が行動することだと思う。

昔は、自分の子でなくても、子どもが悪いことをしていればすぐ叱った。いまは、「見て見ぬフリをする」という状況が多くなっていると思う。せめて南区

から、地域の子どもは、自分の知り合いだと思って声を掛けようということなど、一歩から始めれば少しずつ変わっていくのでは。難しくないことからやりたいと私は思っている。

自治協委員

私は、3人の孫がいる。その孫の来た道を振り返ると、学校の先生方があまりにも世間のことを考えすぎて、大事な教育ができない環境になっていると感じている。世間のことは構わず、ここに行くのだというものを見せれば、子どもたちも一生懸命ついて行くし、親もついて行くと思っている。

教育委員会事務局

キャリア教育というと、皆さんは、どの時間で指導することをイメージとしてとらえているでしょうか。実は、「キャリア教育」という時間はありません。教育活動全般の中で子どもたちがしっかりと自分の生き方を見つめなおしていくという方向で、子どもたちが将来の働く力を身に着けていく。これを、教育活動全体でやるということなのです。

教育委員会では「子どもたちへのキャリア教育とはどういうものか」ということを先生方に知ってもらうため、キャリア教育のリーフレットを作成、配布しています。

たとえば実践の中では総合的な学習時間の中で、南区のアグリパークでは収穫体験ができる。ただ収穫して終わりということではなく、南区の土地の状況や地形的な状況、営みの中で土地が開発され発展してきたこと、先人のどんな苦労の中で今があるのか十分調査追求したうえで、アグリパーク農業体験で自分たちで収穫して、また、学校に戻ってそれらをトータルで自分の生き方とつなげ、やってみるという実践を南区の中学校でもしているところがあります。そういった単発ではない実践を大事にしていく必要があると、ご意見を伺い感じています。

教育委員会事務局

地元で育てた子どもが、地元になかなか残らない。それは職場の問題もあるというのは確かにその通りで、新潟市の場合、18歳から24歳くらいに地元から出て行ってそのまま戻ってこない。このことについて教育委員会では何かを考えているところで、キャリア教育と関連するのですが、例えば南区なら、南区の良さを意外と知らないことも結構あるので、自分たちの住む地域の良さをよく知って、愛着を持つような教育が非常に大事だと思います。将来大人になった時に、故郷に戻って貢献したいという、そういった流れを持たりたいなと思って、教育委員会としてそれをやるための事業、そういったものに力を入れていかなければならないと思っています。

もう一点、教員が世間のことを考えすぎているのではないかという話がありました。いま教員に求められるものは、昔と比べて非常に種類が増えて、エネル

ギーをとられるというのも実際のところ事実ですが、良いか悪いかは別として、対応しなければならぬものはきちっと対応しなければならぬと思っています。教育委員会としては、子どもと教師が接する時間を増やしていくには、一つの方法として、多忙感といいますか多忙化を解消し、教員が子どもとしっかり向き合っただけで子どもと教育に打ち込めるよう、例えばよく言われる調査ものを減らすなど教員をサポートする取り組みを進めています。

自治協委員

教育の政治的中立性について不安を感じている。中立性を確保するには市民にオープンであることが必要。総合教育会議についても透明性を高めることで政治的介入を防げると思う。

南区教育支援センター

地域教育コーディネーター担当指導主事から、キャリア教育関係の取り組みについて紹介。

自治協委員

先ほど、先生方があまりにも心配りをし過ぎているとの話があった。子どもたちに基本的な考えとして教育して欲しいのは、今は、いわゆる何かあった場合は、人のせいにする、周りが悪いからこうなったという風潮があるような気がしてならない。特にメディアは、本人の生活や性格など関係なく「社会が悪い」。そういう風潮がとかく目立っていると思う。

将来子どもたちが親になったとき、何かあったら他人のせいにしないといった教育をしていただきたい。先生方は、そういう社会の情報が流れると矢面に立たされるケースがあるようだが、あまり怖がらないで良いと思う。自信をもって対応するのがよろしいのでは。個人的な意見ですが。

自治協委員

キャリア教育についてお願いがある。キャリア教育というと職業体験や職業指導みたいなことかと思うが、大学生などと話をすると、「何をしたらいいのかわからない」とか「どんな未来を描いたら良いのかわからない」といった悩みを持っている学生が多い。例えば、農業というかどうかという農業の未来があるとか、工業というかどうかという工業の未来があると語れる学生が少ないと最近感じている。子どもが、こういう職種につくとこういう未来を自分が描けるのだと体感できること、それがすごく大事なのではないかと。そうするとそのゴールに向かって自分がこういうことを勉強していけば、こういう未来が描けるのだという具体的な自分の行動につながると思う。そんな指導をしていくことによって、そういう大人がもっと増えて、さらに次の子どもたちに未来を語れる指導ができれば良いと思う。

自治協委員

民間人校長の採用について、その実績と効果を聞かせて欲しい。

教育委員会事務局

新潟市では現在、民間人校長は2人おります。公募、選考試験でふさわしいかどうかを判断して採用し、配属しています。いまのお2人は大変素晴らしい方です。地域と連携しやっておられますし、教員にないような視点で子どもたちを温かく見守ってくれています。そういう面では成果があります。

ただ、応募される方が少ないことが実際問題あります。もっとたくさんの人から応募していただければ、いろいろな人材から校長になっていただけたと思います。教員にない見方を学校現場に吹き込むことは、人数は少ないですが一つの方法としては有効かと思います。うまくいかないケースがあるのではというご質問ですが、結果としていろんな評価があると思います。

民間人校長として採用するに当たっては、いきなり4月に勤務してくださいではなく、事前に教育委員会で研修を受けていただいています。民間の良さを活かしながら、教育的な成果をあげていると思います。

7 自治協議会会長挨拶

道徳教育のこれからの改善という部分で、本当に期待しています。

「豊かな心を育むために」という副題をつけたテーマになりました。今の子どもたちは、相手の思いをくみ取るというのも苦手だし、自分の思いを伝えることも苦手だし、人に思いを寄せるということも苦手です。未来に向かってその連鎖が続いていかないように、ここで心の教育をもう一回見直して、道徳教材に限らず、いろんな意味で良い改善を皆さんで考えていけたらと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

8 閉会